

スペイン訪問の主な内容

5月15日（月曜日）

① バスク自治州貿易投資事務所（BT&I）訪問

バスク自治州貿易投資事務所（BT&I）（※）を訪問し、バスク自治州貿易投資事務所を所管しているバスク自治州政府 経済開発・サステナビリティ・環境省のタピア大臣等と産業連携の幅広い分野への展開について意見交換を行います。

（※）バスク自治州貿易投資事務所（BT&I）

バスク自治州経済開発・サステナビリティ・環境省の外郭団体。

日本を含め世界16か所で、バスク企業に対する、現地市場の研究、資金調達、人材育成、連携先の紹介、プロモーションイベント等の事業を行い、包括的なサポートを提供するとともに、現地の投資家にサポートとアドバイスを提供する。

② ゲスタンプ社ビルバオ研究開発センター 訪問

ゲスタンプ社のグループ会社であるゲスタンプ・ホットスタンピング・ジャパン株式会社が松阪市に立地しており、令和4年5月に発表した工場の拡張に係る投資及び日頃の操業と雇用への謝意を伝えます。

また、三重県内において引き続き投資をお願いするトップセールスを行います。

5月16日（火曜日）

① バスク自治州政府 訪問

覚書（MOU）を締結している産業、食、巡礼道の3つの分野でのバスク自治州との交流について、ウルクリュ首相と面談し、今後の協力関係について意見交換を行います。

② 料理人交流事業 視察

「みえガストロノミーツーリズム」を推進するため、県内の若手料理人が「世界一の美食の街」と称されるサン・セバスティアンのトップシェフと共に料理の創作に取り組む現場を視察するとともに、今後の取組について協力依頼や意見交換を行います。

（※）サン・セバスティアン市

市中心部から半径25km以内に「ミシュランガイド」星付きレストランが18軒あり、人口一人あたりの軒数が世界一であることから、「世界一の美食の街」と称されるようになった。

5月17日（水曜日）

① サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（北の道） 視察

「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（※1）」のうち、バスク自治州を通る「北の道」を歩きながら、巡礼路沿いにあるエルミタ（※2）を視察します。また、アルベルゲ（※3）を視察するとともに、美食倶楽部（※4）にて、巡礼路の保全と振興について民間を含め関係者と意見交換を行います。

（※1） サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

キリスト教の3大聖地の1つであるスペイン北西部ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路で、スペイン国内の「フランスの道」「アラゴンの道」が、1993年、世界文化遺産に登録された。バスク自治州内には、「フランスの道」に次ぐ人気ルートで海（ビスケー湾）を臨む「北の道」（今回の視察先）と、のどかな田舎道や峠道などを通る「内陸の道」が通っており、2015年の拡張登録により、両ルートも世界文化遺産の一部として登録された。

（※2） エルミタ

小規模な教会のことで、司祭等が常駐しているのではなく、必要な時に開けて使用する施設。

（※3） アルベルゲ（巡礼宿）

日本のユースホステルに似た施設で、安価（公営で5～10€、私営で10～15€）で利用できる。案内所機能も兼ねており、施設では巡礼者どうしの情報交換もできる。

（※4） 美食倶楽部

バスク地方にある会員制の厨房付き食堂。自分たちで料理をし、集まって食事を楽しむ。元々は女人禁制。